希望新聞

東日本大震災希望新聞取材班
〒100−8051（住所不要）毎日新聞生活報道部
ファクス03・3212・5177
メールkibou@mainichi.co.jp

被災地に役立つ情報や「伝言板」への投稿をお待ちしています。被災者の今困っていることも募集します。投稿は、氏名、住所、年齢、職業、電話番号（あればメールアドレスも）を明記してください。

東日本大震災

サポート情報

23日現在

商業施設

三井アウトレットパーク仙台港（仙台市宮城野区） 25日、営業を再開する。同日9時45分から再開セレモニーが開かれ、同市立中野中学校吹奏楽部が演奏を披露。先着300人にガーベラをプレゼントする。

仙台泉プレミアム・アウトレット（同市泉区） 25日〜7月8日に1階インフォメーションセンターで子供向け夏物衣料（新品、新品に近いもの）の寄付を受け付ける。被災地の子供たちを支援している「こどもとあゆむネットワーク」を通じて被災地の保育園などに届ける。衣料を持参してくれた人には店内で使える「クーポンシート」を贈る。

ファミリーマート歌津升沢店（宮城県南三陸町） 震災で一時閉店していたが、24日午前7時から24時間営業を再開する。

イオン石巻ショッピングセンター（同県石巻市） 29日〜7月10日、アフガニスタンなどの戦場取材で知られるカメラマン、渡部陽一さんが東日本大震災の被災地で撮影した「笑顔と心の写真展」を開催。入場無料。被災者やボランティアの笑顔45点を展示する。29日14時と16時の2回、渡部さんのトークショーもある。写真展は石巻市を皮切りに9月上旬まで全国8カ所を巡回する。

イベント

＜宮城＞

ナイキファクトリーストア仙台港オープニングイベント 25日13〜14時、仙台市宮城野区中野出花の三井アウトレットパーク仙台港。プロバスケットボールプレーヤー、五十嵐圭選手と現地の子供らがチャリティーフリースロー大会に参加。ゴールが決まるごとに、ナイキジャパンが米国のNPO「アーキテクチャー・フォー・ヒューマニティ」に100円を寄付する。問い合わせはナイキお客様相談室☎0120・550・719。

マナーキッズテニス教室 午前の部は26日10時〜11時半、仙台市若林区蒲町のウェルサンピア仙台。午後の部は同日14〜16時、同市泉区明通1の泉パークタウンテニスクラブ。午前の部は避難所で生活する家族にショートテニスを楽しんでもらう。午後の部は通常のテニスで誰でも参加できる。申し込み不要。問い合わせはNPO「マナーキッズプロジェクト」☎03・3339・6535。

昭和のバスガールによる昭和歌謡ショー 28日15時半〜16時半、松島町の「ホテル松島・大観荘」で。昭和30年代に在籍したはとバスの元バスガイドによる昭和歌謡と、古今亭菊千代さんの落語を披露する。宮城県在住者は現地集合で無料。問い合わせははとバス予約センター☎03・3761・1100。

＜福島＞

頑張ろう！ふくしま応援ライブ！ 25日16時、猪苗代町のホテルリステル猪苗代・ウイングタワー。タンゴやシャンソン、津軽三味線など。無料。問い合わせは同ホテル☎0242・66・2233。

医療

26日の各地の休日当番医は次の通り。

＜岩手県＞

釜石地区＝岩井小児科医院☎0193・23・7573▽気仙地区＝菊田外科泌尿器科☎0192・26・4075

＜宮城県＞

石巻地区＝内科・石巻市立病院仮診療所☎0225・23・3200、小児科・ものうファミリークリニック☎0225・76・4024、外科・ささき整形外科医院☎0225・22・3121、産婦人科・斎藤産婦人科医院☎0225・22・0707▽桃生地区＝石巻ロイヤル病院☎0225・73・5888▽塩釜地区＝塩釜地区休日急患診療センター☎022・366・0630▽気仙沼地区＝おだか医院☎0226・22・3210、三条小児科医院☎0226・23・0088▽大崎地区＝内科系・大崎市民病院鹿島台分院☎0229・56・2611、天野内科クリニック☎0229・39・1233、外科系・徳永整形外科病院☎0229・22・1111▽亘理地区＝やべ内科クリニック☎0223・34・3003

＜福島県＞

南相馬市＝木幡歯科医院☎0244・46・2244、駒場内科医院☎0244・25・7711▽いわき市＝おおはらこどもクリニック（午前中）☎0246・63・0001、門屋整形・内科☎0246・54・4047、こうじま慈愛病院☎0246・63・5141

ミニニュース

■漁船を贈ろう 東京工科大学、日本工学院専門学校を運営する学校法人片柳学園（片柳鴻理事長）が、岩手県宮古市の3漁協に漁船を贈ろうと寄付を募っている。

宮古市出身の学生・卒業生が多いことから、計6隻の漁船を贈り経済復興に役立ててもらおうと計画。アワビ漁が始まる11月に間に合うよう、資金約900万円を学生や職員中心に集めている。

併せて学園では、東京都大田区西蒲田5の東京工科大12号館1階にある「ギャラリー鴻一」で平日11〜15時、宮古市役所の協力を得て写真展「東日本大震災被災地の記録」を実施。ギャラリー内に募金箱を設置し、一般からの寄付も募っている。入場無料、7月20日まで。問い合わせは日本工学院専門学校グラフィックデザイン科☎03・3732・2564。

Q&A

Q 子供の教育費に不安があります。

A 「国の教育ローン」が通常より低い利率で受けられます。

今年度第1次補正予算が成立したことを受け、日本政策金融公庫が5月23日から「国の教育ローン」に「災害特例措置」を設けました。公庫に制度の仕組みを聞きました。

特例措置の対象となるのは、国内外の高校や短大、大学などに在学・入学する学生や生徒の保護者。罹災（りさい）証明書が被災証明書などが必要です。

ただし、世帯年収に制限が設けられています。子供1〜3人世帯は990万円（事業所得770万円）が上限。4人以上の場合は一定額が上乗せされます。特例措置によって、子供1〜2人の上限が通常に比べて最大200万円引き上げ（緩和）られました。

貸付期間は15年以内から18年以内に延長。融資利率（固定）は通常より0・4％低い年2・45％で、母子家庭は2・05％となりました。貸付限度額は学生・生徒1人300万円で、受験費用や入学金、授業料、定期代、下宿代などに使えます。

震災発生日から特例措置が適用されるまでの間に「国の教育ローン」を申し込んだ方も、罹災・被災証明書などを提出すれば、さかのぼって特例措置が適用されます。詳しくは日本政策金融公庫・教育ローンコールセンター（☎0570・008656）に問い合わせてください。【高島博之】

仮設から郵便出したい

被災者が求める物資や人的支援情報をお知らせします。必ず事前連絡をお願いします。

■遠野まごころネット（岩手県遠野市）☎0198・62・1001 tonomagokoro@gmail.com http://tonomagokoro.net/

郵便局関係者にお願いしたい 岩手県陸前高田市で被災者の仮設住宅への入居が進んでいるが、「郵便物は届くが、近くに郵便ポストがないため、郵便物を送れない」という声を耳にした。最寄りの郵便ポストまで歩いて30分以上もかかる地域があるといい、特に高齢者や身体障害者が悩んでいるという。この問題は同市だけに限らないはず。ボランティアが郵便物を預かるわけにもいかず、郵便局の方に何とか支援をお願いできれば。

■ふくふくプロジェクト（福島市）☎024・526・4533 f-ssc@bz01.plala.or.jp http://www.f-npo.jp/

中型、大型の動力噴霧器、軽トラック、ノズル、ホースを求む 「エコクラブだて」（福島県伊達市）が被災地のがれき撤去作業の際、悪臭を抑える溶液をまくための大型の動力噴霧器と軽トラック、ノズル、ホースを求めている。15日の「ニーズ情報」で中型、小型の動力噴霧器を求めたところ、届けてくれる人があり、早速使わせてもらって効果が出た。ただ、作業範囲があまりに広く、小型で対応できないことが分かった。問い合わせはエコクラブだての遠藤さん（☎024・583・3263）。

■共同支援ネットワーク（仙台市） kyoudounet@gmail.com http://www.clc-japan.com/jishin_b.html

看護師ボランティア急募 6月28日〜7月2日、6月28日〜7月5日にそれぞれボランティアで活動できる看護師を募集中。主に宮城県内の保健センターなどで相談業務に当たってもらう。長期で活動できる看護師も募集している。連絡はメールで。

仏壇を求む 津波で自宅を流され、家財道具とともに仏壇を失った被災者が多い。仮設住宅に設置できるような、コンパクトで簡易型の仏壇があれば、被災者に提供したい。ただし新品に限定する。また、仮設入居者が掃除機と扇風機も求めている。同じく新品で。

ニーズ情報

伝言板

女児の夏服送ります

▼女児用お古の夏物衣料送ります 静岡市の女性(48)が、身長130〜150㌢の女児用のお古の夏物衣料を、被災した方に無料で送ります。▽半袖Tシャツ（130㌢が5枚、140〜150㌢が8枚）▽タンクトップ（140〜150㌢が3枚）▽半ズボン（130〜150㌢が5枚）▽薄手の長袖Tシャツ（150〜160㌢が4枚）です。主なメーカーはインナープレスで、色はピンク、黒、カーキなど。洗濯済み。「ポーイッシュで元気な女の子向けで、娘が小学5、6年の時着ていました。住所、氏名、連絡先をファクス（054・354・5098）で送ってください」

▼ヒマワリの種、差し上げます 阪神大震災の時にヒマワリの種を配った、神戸市の荒井勤（いさお）さん(65)らが被災した方にヒマワリの種を郵送します。1人1袋（約15粒入り）で約3万袋用意。「出遅れ感がありますが、晩夏にまけば秋に咲きます」。80円切手を貼った返信用封筒に送り先の住所、氏名を書き、封筒に入れて荒井さんが代表のNPO法人に送ってください。あて先は〒655−0043 神戸市垂水区南多聞台3の6の6の105、NPO法人ひまわりの夢企画「ひまわりプロジェクト係」。団体や農家で大量に必要な方は、ファクス（078・787・7387、電話も）に住所、氏名、連絡先を送ってください。締め切りは7月31日。

また同団体は、被災地に配布中の茶わんを提供してくれた方に礼状を送るため、未使用の年賀状や官製はがきの提供を求めています。

▼スーツは釜石の男性へ 東京都文京区の女性が譲渡を申し出ていた男性用スーツは、岩手県釜石市の男性に送られます。男性からのファクスには「住居、車、船が流失し仮設住宅で生活している」と書かれていたそうです。女性は「胸のつぶれる思い。手紙を添え送ります」と話していました。

海女の仲間の今後心配

島の公民館で支援物資の整理に忙しい小野寺たつえさん。震災後、海女として出漁できない日々が続く

声 被災者から

宮城

震災の影響で出漁できない石巻市・網地島の海女、小野寺たつえさん(68)「6月はアワビ漁の開口（解禁）の時期ですが、津波で島の港が破壊され、船が流されたので漁に出ることができません。島の周りはたくさんの資源があるだけに、残念です。島にいる17人の海女の年齢は平均70歳くらい。後継者はいません。震災がきっかけで、潜らなくなる人が出て、仲間が減ってしまうことが心配です」【水戸健一】

福島

川内村から避難して郡山市のビッグパレットふくしまの隣にある仮設住宅で暮らす元農家の本多富次さん(75)「震災直後から1カ月ほど、白河市の娘の家に身を寄せていたけれど、村の仲間に会いたくて郡山の避難所に来ました。久しぶりに友達や親戚に会えて本当にうれしかった。みんなと毎日話すのは楽しい。でも何がつらいって、放射性物質のせいで、畑で作った野菜が食べられないことかな。もう一つ。家族のことが心配でも娘や息子たちと一緒に暮らせないこと」【山本健太】

「娘や息子たちと暮らしたい」と話す本多富次さん

その他

■旅券 外務省は、東日本大震災で紛失したパスポートが不正利用される恐れがあるとして、被災者に紛失届の提出を呼びかけている。紛失届を出した被災者には、紛失したパスポートと同じ有効期限の「震災特例旅券」を国の手数料（10年＝1万4000円、5年＝9000円、子ども＝4000円）を免除して発行する。

岩手、宮城両県は県の手数料（2000円）も免除しており、福島県も今後、免除する方針。ただ、国、県の手数料免除を受けるには、通常の申請書類に加え、自宅の全壊、半壊などの罹災（りさい）証明書の提出が必要となる。提出は13年3月末まで。詳細は各県の旅券事務所に問い合わせを。岩手県☎019・606・1720、宮城県☎022・211・2278、福島県☎024・525・4032。

◆電◆話◆帳◆

●行方不明者・震災関連相談ダイヤル
岩手県警 0120・801・471
宮城県警 022・221・2000
福島県警 024・522・2151（内線3024）

●医療
文部科学省健康相談ホットライン・放射線関連 0120・755・199（9〜18時）
放射線医学総合研究所相談窓口 043・290・4003（9〜17時）

●生活支援
日弁連電話相談0120・366・556（平日10〜15時）
岩手弁護士会 0120・755・745（月〜土曜13〜16時）
仙台弁護士会0120・216・151（平日10〜19時）
福島県弁護士会024・534・1211（平日14〜16時）
あしなが育英会 被災者専用 0120・77・8565（遺児らに特別奨学一時金を支給）
チャイルドライン 0120・99・7777（月〜土16〜21時、18歳までの子ども向け）
震災関連の悪質商法110番 0120・214・888（10〜16時）

●省庁 ※平日のみ
公営住宅等情報センター 0120・297・722（9〜18時。全国の公営住宅などを紹介）
住宅の補修・再建（国交省） 0120・330・712（月〜土）
行政相談（東北管区行政評価局） 0120・511・556
金融相談（東北財務局） 022・721・7078
中小企業相談（経産省） 0570・064・350
農林水産業の被害相談（農水省） 0120・355・567
年金の相談（日本年金機構）0120・707・118※

●金融・保険 ※平日のみ
預金口座照会センター（全国銀行協会） 0120・751・557※
災害地域生保契約照会センター（生保協会） 0120・001・731※
そんがいほけん相談室（日本損保協会） 0120・107・808※
携帯・PHSからは03・3255・1306※

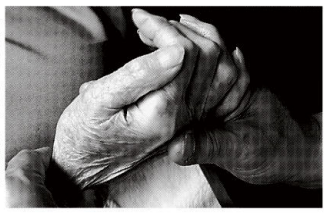
●移転した役所
＜岩手県＞
陸前高田市 高田町鳴石 0192・54・2111
釜石市 シープラザ釜石 0193・22・8253
大槌町 大槌小学校 0193・42・2111
＜宮城県＞
女川町 女川第二小学校 0225・54・3131
南三陸町 町総合体育館ベイサイドアリーナ南側テニスコートの仮庁舎 0226・46・2600
＜福島県＞
広野町 FDKモジュールシステムテクノロジーいわき工場 0246・43・1331
楢葉町 会津美里町本郷庁舎0242・56・2155
富岡町 郡山・ビッグパレット 0120・336・466
川内村 郡山・ビッグパレット 0120・38・2119
大熊町 会津若松市追手町第2庁舎0242・26・3844
双葉町 旧埼玉県立騎西高校0480・73・6880
浪江町 県男女共生センター（二本松市）コールセンター 03・5638・5055
飯舘村 福島市飯野支所内024・562・4200
葛尾村 旧法務局会津坂下出張所 0242・83・0271

★一時立ち入り受付センター0120・208・066 警戒区域9市町村への一時立ち入りを申し込める。8〜20時

三陸物語 Sanriku Monogatari

全盲の鍼灸師 藤原正さん ❾

被災者の思いにも向き合って



おばあさんの手に、藤原さんが手を重ねて施術する

避難所になった大槌高校に通い、被災者にはりとマッサージのボランティアを続けながら、藤原正さん(53)は自問した。

「硬さをどこまでほぐしていいものか…」

かけがえのない人々や住み慣れた家を失ったうえに、衣食住にもこと欠く避難所暮らし。喪失感や悲しみを抱え将来の不安におびえる様子が、体や脈のこわばりとして指先に伝わり、「ほぐし過ぎると、生きようとする心まで折ってしまいそうに思えた」からだ。

悩んだ末、藤原さんは考えるのをやめた。「自分が何とかしてやろうという気負いを捨て、まずは自らの心を穏やかにして、相手に向き合おう」と。結果、施術のひと時はみんなの吐き出しの場になった。体裁を脱ぎ捨て、男性も女性も思いの丈を言葉にした。

藤原さんが往診を再開したのは6月に入ってからだ。「はりを打ってほしい」となじみ客が藤原さんの行方を捜し、避難先の石井家にたどり着いた。鍼灸（しんきゅう）の器材は流されたが、全国の鍼灸師仲間から支援物資のはりが届いた。

仲間との絆をつないだのは盛岡の専門学校で鍼灸を学ぶ長男真太郎さん(19)だ。被災翌日に友人の車で大槌に入り避難所を回った真太郎さんは、一時は家族の死を覚悟した。13日にたまたま避難所に顔を出した祖母久子さん(76)と再会し、一家が身を寄せる石井家にたどりついて家族の無事に号泣した。

「学校をやめる」。親を案じ、そう言い出した真太郎さんを、藤原さんは妻美幸さん(43)と説得した。そして、新潟と茨城にいる藤原さんの妹や鍼灸師仲間に無事を伝えるよう頼んだ。

新潟の妹一家が車で駆けつけたのは3月20日。同じ日、鍼灸師仲間から届いた支援物資を満載した車も来た。真太郎さんが乗っていた。

【萩尾信也、写真も】

◇

「三陸物語」は火〜土曜日に掲載します。

■被災地へボランティアに行くには■

各地の災害ボランティアセンター（VC）が被災地で活動するボランティアを募っている。電話で問い合わせる前に各サイトで情報の確認を。また、被災地に赴く前に居住地の社会福祉協議会でボランティア活動保険に加入することが望ましい。主なVC窓口は次の通り。

＜岩手県＞

県VCや各社協が内陸部に拠点を設け、沿岸部の被災地に送迎バスを出している。

◆県VC ☎019・637・7594 サイトでは個人参加できるボランティアバスの運行状況や各VCの募集情報を公開中

◆遠野市VC「遠野まごころネット」 ☎0198・62・1001 遠野市総合福祉センター発着便で沿岸部の被災地に毎日ボランティアを派遣。登録も随時受け付け。要事前申し込み。寝袋持参で体育館宿泊可

◆宮古市VC ☎090・4478・3984 個人、団体とも1週間前までに電話連絡を

◆陸前高田市VC ☎090・2852・9736 できるだけ2人以上で参加し、3日前までに連絡

◆大槌町社協VC ☎080・3518・8490 5人以上の団体で要事前登録。個人参加は県VCの盛岡発ボランティアバスを利用する

＜宮城県＞

各VCが県外からの個人ボランティアも受け付けている。詳細は各VCのサイトで。

◆仙台市VC ☎022・231・1326 5人以上での参加は先着50人まで、要事前申し込み

◆石巻市VC ☎0225・23・6015 10人以上の団体は要事前連絡

◆気仙沼市VC ☎080・5949・7475 10人以上の団体は3日前までに事前連絡

◆名取市VC ☎022・784・3029 団体は要事前問い合わせ

◆多賀城市VC ☎080・5949・7501

◆岩沼市VC ☎080・5949・7541 8人以上の団体は要事前申し込み

◆東松島市VC ☎0225・82・9812 車中泊スペースあり。土のう袋をなるべく持参。5人以上のグループは早めに事前申し込みを

◆亘理町VC ☎080・5949・7719 団体は要事前申し込み

◆山元町VC ☎080・5949・7720 要事前申し込み

◆七ケ浜町VC ☎090・6853・4490 団体は要事前申し込み

◆南三陸町VC ☎080・2055・1066 県内外問わず団体も受け入れ中

＜福島県＞

◆県VC ☎024・522・6540

◆相馬市VC ☎0244・36・7827

◆南相馬市VC ☎0244・24・1877 公式ホームページで活動内容や注意事項の確認を

◆新地町VC ☎0244・62・5577 要電話確認。毎週木曜は活動休止日。テント泊、車中泊は禁止

◆いわき市VC ☎0246・22・5501 団体は要事前申し込み